



# 日 乗 連 ニ ュ ー ス

## ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2008.6.9 No. 31 - 61

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan  
幹事会  
〒144-0043  
東京都大田区羽田5-11-4  
フェニックスビル  
TEL.03-5705-2770  
FAX.03-5705-3274  
E-mail:office30@alpajapan.org

## スカイマーク社

### ずさんな乗員計画、事業計画がついに社会問題に！

6月3日のNHK報道をきっかけにテレビ各局、全ての新聞等でスカイマーク社のずさんな経営実態が明らかになりました。

報道によれば、

スカイマーク168便欠航、福岡～羽田便など機長不足で スカイマークは、2日、6月中に運航を予定していた約1700便の1割にあたる168便を欠航する、と国土交通省に届け出た。このうち、2日は羽田発着の旭川線2便と神戸線2便の計4便が欠航した。パイロット不足で大量に欠航する事態は例がない。国交省はスカイマークに対し、欠航の告知や予約客への払い戻しの徹底を指示した。欠航はいずれも羽田発着の4路線で、旭川線40便、新千歳線24便、神戸線56便、福岡線48便。これらの路線はボーイング737型機を投入し、約20人のパイロットで運航スケジュールを組んでいた。しかし、5月末に2人が病気治療などを理由に退職し、当面、代替りのパイロットの確保が難しくなったという。予約客には前後の時間帯の便や、他社の代替便を用意するとしているが、影響人員は8000人を超える恐れがある。「2人の退職は予想外だった。乗客に迷惑をかけないよう、早急に体制を整える」(広報担当)と話している。(2008年6月3日 読売新聞)

168便の運休のスカイマークに乗客激怒「とんでもない！！」(2日 MNS産経ニュース)

スカイマーク:「機長足りない」168便欠航 病気療養・自己退職、突如2人欠員 同社では大型機による大量輸送から中型機による運航回数増加への変化も、乗員の需要に拍車をかけており、スカイマークも「我々の体力では、機長1人にかえられる給与にも限界があり、契約が更新できないなどのリスクを常に抱えている」と話す。航空アナリストの杉浦一機氏は「新規航空会社は確かに運賃は安い、欠航などのリスクがより大きいことを認識したうえで利用すべきだ」と話す。機長不足の問題についても「中国とともに、世界的な格安航空会社の増加も乗員不足に影響している。今後、一層深刻になる可能性がある」と警鐘を鳴らす。(2008年6月3日毎日新聞)

観光への影響懸念「早期に回復を」 スカイマークは四月に減便したばかり。利用客にとっては選択肢が多い方が便利。神戸市観光交流課も「期間限定とはいえ、観光面からみると減便はつらい」(3日 神戸新聞)

スカイマークが異例の大規模運休 多くの観光客が来ることを期待していた旭川市も困惑。公共交通機関としての信頼性が問われる。(3日 札幌テレビ)



このような杜撰な乗員計画や事業計画による様々な問題はスカイマーク社設立以来の課題でしたが、特に西久保社長就任以降さらに顕著になっているとのこと。職場の不平・不満もこの頃から大きくなったと言われており、運航乗務員の退職者もこの頃から激増しています(乗員組合によれば 2007 年: COPI が 3 名、2008 年 3 月末には一度に 7 名の COPI が退職)。

2007 年 4 月にスカイマーク乗員組合が結成され、外国人乗員や他社の加齢乗員に頼った結果 PROPER の機長養成も滞る等の乗員計画問題の解決、過酷な勤務条件の改善、賃金改善等々について当初から指摘し改善要求してきました。しかしながら経営は一切回答しないばかりか、労働委員会の斡旋に合意したにも関わらず未だに団体交渉すらも拒否し続けています。さらに乗員組合員への脱退強要や、教宣物を配布するという組合活動に対して「執行委員長個人への懲戒処分や制裁としての年度末一時金不払い」等、不当労働行為を頻発させており乗員組合への対決の姿勢、組合潰しの姿勢を前面に打ち出しています。

一方で BOTH WX RADAR INOP という故障が発生した際に、航空法第 60 条の但し書きを拡大解釈して機長に運航を迫り、羽田 - 新千歳間を 2 往復(夜間の往復も含め)させるなど安全軽視の運航も発生しています。

この状況を踏まえ、スカイマーク乗員組合は経営に申し入れました。

スカイマーク乗 02-022  
2008年6月4日

スカイマーク株式会社  
代表取締役社長 西久保 慎一殿

スカイマーク乗員組合  
執行委員長 高木 豊

### 欠航便大量発生に関わる報道について

6 月 2 日の NHK 報道をはじめとして、各テレビ局および新聞各社から、スカイマーク社の表題のような経営問題について報道がありました。これらの内容は、以前から私たちが経営に指摘してきた「乗員不足」にかかわる大量の欠航便についてです。

乗員組合は、今後の経営方針について懸念しております。乗員だけでなく、スカイマーク全社員が同じ気持ちであると考えます。

3月の労働委員会斡旋合意を踏まえて、5月21日にも乗員計画に関わる議題を含めた団体交渉を要求しておりますが、未だに開催されていません。これまでに再三再四、団体交渉の開催を要求しております。

今回の突然の大量欠航便に関する問題を含めまして、早急に団体交渉を開催することを改めて要求いたします。

さらに、今回の事態の経緯や、今後の経営方針等、経営者としてのお考えを早急に全社員へ公表することで、経営として説明責任を果たしていただくこともあわせて要望します。

以上

スカイマーク乗員組合はこのような厳しい情勢のもとで、会社の隠蔽体質や社会性の極めて欠如した経営体質を改善させ、より安全でより良い労働条件を勝ち取るため日々奮闘しています。日乗連加盟組合の皆さんの今まで以上のご理解ご支援をよろしく申し上げます。